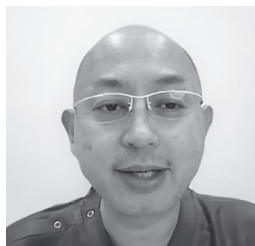


11月 度修  
生涯研

# CR修復をテーマに講演

## 接着の基本、材料特性を解説



高い成功率を示した上で、「CRのトラブルは4年以内に発生し、4年を超えると長期に安定する」と解説。「早期に失敗症例が出てくるため、再修復をする場合でも歯質を多く残すことができ」と強調した。

臨床学術部は11月21日、生涯研修講座「CR修復の悩みを解消！CR修復を長持ちさせる術と最新CR材料の使いこなし」を開いた。ウエビナーを用いたWEB講習会として開催し、須崎明先生(医療法人ジニアばんだ歯科理事長・写真)を講師に63人が参加した。

須崎氏は、10年後成功率が臼歯部で90%以上な

エスを除く、術後疼痛は接着力不足が原因であることが多い。ボンディングの後にフロアブルレジ

## 「余技展」開く

女性医師・歯科医師の会

女性医師・歯科医師の会は11月25日から2日間、中之島中央公会堂で会員自らの作品を集めた「余技展」を開催(写真)。書画、写真など15作品を出展した。例年同日に開催してきた「手仕事講座」は感染対策のため昨年に引き続き開催を見送った。



ンを入れることが重要である」と解説した。須崎氏は、「発売されているCR材料で悪いものはない。接着の基本と使用する製品の特性を理解し、製品を使いこなすことが重要」と強調した。

## 2022診療報酬改定

訪問診療で4項目の論点

11月10日の中央社会保険医療協議会総会で、在宅歯科医療に関する次期改定へ向けた議論が行われた。厚労省は▽診療行為の内容や診療に要する時間などを踏まえた評価▽在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料・小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料・小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料の患者像を踏まえた評価▽在宅療養支援歯科診療所(歯援診)の施設基準の評価▽外来から在宅に移行する際の医療科連携に関する評価など4つの論点を示した。

## 医療技術提案 歯科76件

次期改定に向け、新規保険収載や既収載技術の再評価などの対象となる医療技術案も報告された。歯科関係では「金属アレルギー患者へのジルコニアによる前歯部CAD

うな工夫を求めた。一方、支払側・安藤伸樹委員(全国健康保険協会理事長)は、要件を満たせない要因分析が必要とし、要件の緩和は望ましくないとして厳格化を求めた。その他、田村文蒼専門委員からは、小児訪問口腔リハビリから訪問口腔リハビリへの移行で、管理が継続できない算定要件上の課題が指摘され、改善の必要性が議論された。

## どう見る 改憲議論



総選挙から1カ月経ち、自民党や躍進した日本維新の会などいわゆる改憲勢力が、この機をとらえて改憲に向けた動きを本格化させている。

衆議院選挙後、与野党内で憲法改正に積極的な発言が相次いでいる。協会顧問弁護士の西晃氏(大阪弁護士会憲法問題特別委員会委員長・写真)に、加速する改憲議論の動向について聞いた。

## 改憲の地ならし

岸田総理は自民党改憲4項目(1)自衛隊明記(2)緊急事態条項の新設(3)参院選「合区」解消(4)教育充実一について、「4項目同時にこだわるものではない」と発言してみたり、党内

に自民党改憲「推進本部」を「実現本部」という名称に変えて実現していくという動きもある。党と政府を挙げた改憲への地ならしを進めている様子が明らかだ。他方、維新は自ら音頭を取り、来年1月以降の通常国会では、週一回、必ず憲法審査会を開催しようと言っている。

# 改憲の国民要求少ない

大阪弁護士会憲法問題特別委員会委員長 西晃氏

い。改憲に向けた世論作りが進められようとしている。改憲議論自体は当然やっていくべきだと述べている。方向性は違っても、議論が加速化していることは間違いない。

問題とは、改憲議論に必要な衆議院での改憲勢力の議席数の現状だ。衆議院では改憲勢力は3分の2どころか4分の3を占める。参議院では数え方にもよるが、ぎりぎり3分の2を超えないというが予断を許さない状況だ。今後国会の議論が進んでいくと思うが、最後は国民が何を望んでいるのかということである。

後手の施策 為政者の一部議員はコロナ対策を憲法改正問題に結びつけようとするが、国民の要求は別のところにある。いま現に憲法を変えてほしいという国民要求は少ない。例えば、緊急事態条項を書き加えてでもコロナ対策をやってもたら良かったんだという国民の願いが現実にあるかといえは、そういう要求はない。むしろ、今の法律の制度を駆使して、的確なコロナ対策や経済対策を望んでいると捉えるべきではないか。

憲法に障がい要因があるというよりは、国の施策が



国連が採択した「健康な高齢化の10年」のウェブサイト

参考文献 1. World Health Organization. UN Decade of Healthy Ageing 2021. www.who.int/initiatives/decade-of-healthy-ageing. 2. World Health Organization. UN Decade of Healthy Ageing - The Platform. www.decadeofhealthyageing.org. 3. Patel J, et al. Roseman J, et al. Oral health for healthy ageing. The Lancet Healthy Longevity. 2021;2(8):e521-e527. 4. テレビ東京. 一柳良雄が問う 日本の未来 世界に誇る山形の革新力. www.tv-tokyo.co.jp/broad\_bstvtokyo4k/program/detail/202010/31342\_202010030900.html. 5. Dong X, Milholland B, Vijg J. Evidence for a limit to human lifespan. Nature. 2016;538(7624):257-259. スウェーデン・イエテボリ大学名誉教授ドavenport・ヒルクヘッド先生のウェビナーを行っています。ご興味のある方は、psap@honto-no-yobou.jpまで。

世界中で急速に進む高齢化 国連がこの採択をしたのは、世界中でかつてないほどの急速な高齢化が進んでいるという事情がある。それは平均寿命の延長と少子化によるもので、この人口動態の変化傾向は日本だけではない。高齢者が社会の負担になるのではなく、元気で貢献し続けられるように、社会で補助していかねば、解決策はないだろう。

## 健康な高齢化の10年

健康な高齢化の10年」の最初の年であった今年、オンライン上にプラットフォームが創設され、参考資料にアクセスしたり、投稿したり、サポートを受けたりできるようになった。学術分野では、医学雑誌「ランセット」に関連姉妹誌が創刊され、早くも口腔保健が「健康な高齢化の10年」の重要な要素として取り上げられている。

予防臨床の最前線 NPO法人「最先端のむし歯・歯周病予防を要求する会」理事長 西真紀子

健康な歯を何年でも保つ 高齢者が健康な歯を保つことの保てないのでは、健康に歳を重ねることに大きく影響するだろう。しかも、健康な歯を損ねている大部分の原因が齲蝕と歯周病で、それらは予防できる疾患である。まずは、高齢者に近い位置にいる一般医療従事者や介護関係者に口腔二大疾患の病因論を理解してもらい、口腔衛生に対する協力を得なければならぬ。彼らが歯の喪失が加齢現象だと誤解している間は、前進しないのではないだろうか。皮膚の皺や白髪のような加齢現象に相当するのは、歯の色や質の変化や、歯槽の狭窄などであって、歯が1本、2本と抜けていくことではないはずだ。私が知る限り、適切な予防歯科臨床によって10歳で26本の歯を保っている高齢者がいる。「4」。人間の寿命は15年まで延びるという報告もある。「5」。人生が100年であろうと120年であろうと、適切な予防歯科臨床によって、自分の歯を28本健康に残すことは不可能ではないと強く信じている。(おわり)